

齋藤茂吉全集 第五十六卷

(第二期 第三十一回配本)

昭和三十二年七月十五日 第一刷發行 ©

齋藤茂吉全集 第五十六卷

定價六百八十圓

著者 齋藤茂吉



發行者 東京都千代田區神田一ツ橋二丁目三番地
岩波雄一郎

印刷者 東京都青梅市根ヶ布三八五番地
山田一雄

發行所 東京都千代田區
神田一ツ橋二ノ三 株式會社 岩波書店

落丁本・亂丁本はお取替いたします

精興社印刷・牧製本

目次

短歌補遺

明治三十一年	三
明治三十二年	四
明治三十三年	六
明治三十四年	八
明治三十八年	一〇
明治三十九年	一〇
明治四十年	二〇
明治四十一年	二六
明治四十二年	三九
明治四十三年	四三

大正元年	癸卯
大正二年	癸卯
大正三年	癸卯
大正四年	癸卯
大正五年	癸卯
大正六年	癸卯
大正七年	癸卯
大正八年	癸卯
大正九年	癸卯
大正十年	癸卯
大正十三年	癸酉
大正十四年	癸酉
大正十五年	癸酉
昭和二年	壬午
昭和三年	壬午

昭和四年	一九二九年
昭和五年	一九三〇年
昭和六年	一九三一年
昭和七年	一九三二年
昭和八年	一九三三年
昭和九年	一九三四年
昭和十年	一九三五年
昭和十一年	一九三六年
昭和十二年	一九三七年
昭和十三年	一九三八年
昭和十四年	一九三九年
昭和十五年	一九四〇年
昭和十六年	一九四一年
昭和十七年	一九四二年
昭和十八年	一九四三年

昭和十九年 一三五

昭和二十年 一三九

昭和二十一年 一七三

昭和二十二年 一八〇

昭和二十三年 一八九

昭和二十四年 一九四

昭和二十五年 一九九

昭和二十六年 一〇四

年月未詳 一〇五

俳句 一一一

隨筆補遺

骨 一一三

無題 一一四

萬葉集から 一一五

人麻呂其他

二三七

無題

二三八

八木沼氏を憶ふ

二三九

そのころの想ひ出

二四〇

老

二四一

歌論補遺

童馬言

二四二

無題

二四三

雜錄

二四四

童馬漫筆

二四五

短歌雜論

二五

童馬漫筆

二五七

水穂征伐

二五九

歌俳小感

二七三

萬葉集一首

〔六三〕

第三句の助詞『て』

〔六五〕

「ともしび」より

〔六六〕

無題

〔三〇〕

柿本人麿補遺

人麿文獻補遺

〔三二〕

鴨山一說

〔三三〕

小篠大記

〔三四〕

評釋補遺

「萬葉集畫撰」解說

〔三五〕

古傳說

〔三五〕

詩補遺

偶感 二九

第二高女、茶話會ユモアの歌 三〇

醫學補遺

脳の悪い人の夏の注意 三七三

雜纂補遺

序跋

「平賀元義歌集」追加及正誤補訂 三七九

「評釋萬葉集傑作選」序 三八〇

「柿落集」序 三八一

「霧苔」序 三八四

「中央街」序 三八六

推薦文・廣告文

最も時宜を得た計畫（改版「短歌講座」） 三八八

推薦の言葉（「萩原朔太郎全集」）	三六八
かがやかしい業績（「佐佐木信綱全集」）	三八九
「橘曙覽全集」	三九一
「現代短歌全集」	三九二
選評	
「アララギ」選評	三九五
「女性」選評	三九六
「若草」選評	三九八
應答	
推薦の言葉	
愛誦歌一首評釋	四〇九
記・紀・萬葉に於けるわが愛誦歌	四一〇
雜篇	
「金槐集私鈔」附記	四一一
六月歌會	

無題 四一

前號正誤 四二

左千夫先生三周忌 四三

餘錄 四三

アララギ短冊會廣告 四四

長崎歌會四五

山房私信四五

小池甚三氏のハガキ帖に四八

談話

定型問題座談會四九

歌人としての佐佐木先生四五

手記補遺

手記雜一四五

手記雜二四九

書簡補遺

五三三

齋藤茂吉年譜

五三七

總目索引

五三九

後記

一

補遺

短歌補遺

明治三十一年

○〔十月三十日守谷富太郎氏宛〕

兄上は雲か霞かはてしなき異域の野べになにをしつらん
此事も君の爲めなり國のため異境の月も心照らさん

明治三十二年

○ 「一月七日守谷富太郎氏宛」

日の丸の御旗もいとどなびくかな千代田の宮の新玉の年

金龍山に詣でて

鳥だにも新に年をとりぬらん凌雲閣上とんびなくなり

かたほほに墨のあとかた影見えて羽子つく子等のあら玉のとしひのばのと明くる朝日の影赤く神世ながらの年は來にけり
風の音や羽子や手まりの音清み松の雀も千々代とぞなく

臺灣の新年を思て

我兄も宜蘭城外歌ふらん新高山もゆるぐばかりに